

みんなと一緒に楽しんで、いろいろな活動に参加する子

八木 恵美子

はじめに

発達段階が2歳～3歳のA子は、第一反抗期、自我の充実の期にある。自分の思いがでてきて、それが尊重されないと「……ない」「いやだ」と拒否し、すわり込んで動かなくなる。しかし、声かけで少しずつ自分を立ち直らせる自己復元力のできかかっている段階でもある。また、仕事の内容や使う道具には、まだ意識が薄いですが、みんなと一緒にいて「自分も仕事をしているのだ」ということを認められることには、大きな喜びを感じる段階でもある。いろいろな活動の中に含まれている遊びの要素や遊び的雰囲気のにせながら、みんなと同じ活動の一部をにない、遊びだけれど「わたしも同じように仕事をしているのだ」という場面を大切に指導してきた。その事例を述べてみたい。

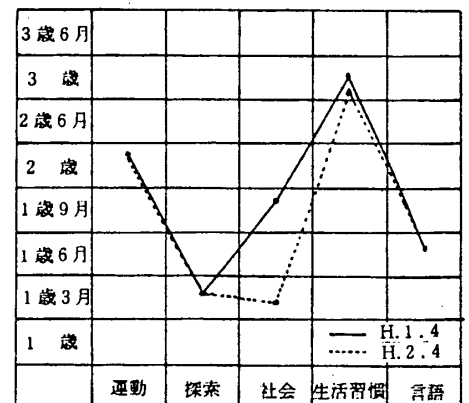
1. プロフィール

(1) 生育歴

- 昭和51年1月26日生 14歳10か月 中学部3年生 女子。てんかん。精神発達遅滞。左目斜視
- 5歳3か月の頃より現在まで、目つむり発作を1日に数回起こしている。平成元年度に2回大発作を起こした。
- 家庭保育3年7か月、若草学園2年7か月を経て、本校小学部へ入学、現在に至る

(2) 諸検査等による実態

- 津守式乳幼児発達検査〔図1〕では、発達年齢2歳半程度。
 - ・日常生活では、昨年よりも伸びが感じられるが、得点までには至っていないことが多い。
 - ・指示がよくわかりだし、昨年より動作が早くなってきている。意欲面では、相当高くなっていると思われる。
 - ・年齢の低い部分が、ゆっくりではあるが、少しずつ少しずつ充実していくタイプと考える。



【図1】津守式乳幼児発達検査

- 61頁、図10に示すからだの輪郭表では、2～3歳の発達が不十分だが少しずつできかけている。やはり「探索」が低いですが、これは、道具の操作がわからなかったり、理解が伴わないためである。発達検査と同様、はっきりとできるようになったとまではいかないことが多いが、意欲面で伸びてきている。

(3) 性格、行動上の特性

- ・音楽が大好きでリズム感がある。曲に合わせて手をふったり、とんだりはねたりしてよく踊る。
- ・「トントン」「コンコン」「パタパタ」等、リズム的な音を喜び、遊びながらよく口にする。
- ・発語が増え、場に合った応答をすることがある。
- ・やりたくなかったり、やりたいことを止められたりすると座り込んだり、動かなくなる。
- ・たいぎくなると「終わり」「もういい」等と言ってやめたり、机にうつ伏せたりする。
- ・視力が弱く、視野も狭く、指先の細かい作業が苦手である。

2. 取り組みの構想

(1) 指導仮説

みんなと一緒にいて、友達や先生の真似をしたり、音、リズム等を中心に好きな遊びをさせたり、遊びの参加をさせて、楽しんでからだを動かさせ、「わたしもみんなと一緒にやっているんだ」という喜びを感じさせる。遊びであっても一生懸命した部分、できた部分はみんなで認め、誉めて「できた」「やった」という満足感を与える。そのことが、次への意欲もわき、少しでもみんなと一緒に楽しんで活動できると考えた。

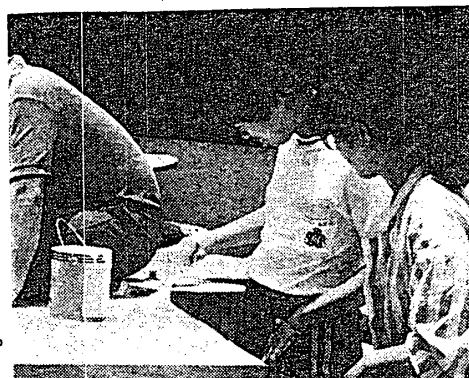
(2) 指導方針

- ・たとえ形にならなくても、でき上がらなくても、A子にとって楽しい活動ができればさせて、それをみんなの中で生かすようにする。
- ・好きな遊びを工夫して取り入れたり、先生や友達の真似をさせたりして楽しく参加させる。
- ・リズム的な声かけをしたり、歌やリズムにのせて活動させる。
- ・くり返しの活動、物を持ってくり返し運ぶ活動を多く取り入れる。
- ・励ましや賞賛の機会を多くして、持続とやる気を起こさせる。
- ・やめたり、勝手な行動をしようとした時は、声かけをしてじっと考えさせ、プラスの行動を選択させる。

3. 指導の実例 (生活単元学習での遊び的取り組み)

①「野外炊飯」の事例

ペンキぬり …野外炊飯に使う荷車をみんなで作り、色をぬった。「さあ、みんなでぬりましょう。」と言っただけで、A子に指示は与えなかったが、人のするのを見て、ペンキとハケを持ってきてぬっていた。友達や先生の「よいしょ、よいしょ」のリズミカルなかけ声にA子も「よいしょ、よいしょ」と言いながら、調子よく楽しそうにペンキぬりをした。調理台にぬった時にも、友達の横にすわってベタベタぬっていた。テーブルの時は、ぬる場所が広がったので自由にぬらせてみた。白いペンキを缶ごともってきて、「シューシュー」と言いながら大胆にのびのびとぬり、体や服にもつけてしまった。



旗作り …学級の旗作りをした時、トラのマークのいも版をもらおうと、まだ作業にかかっていないのに、「ベタベタ」「チューチュー」と言いながら机に押していた。布にも「バンバン」と押して喜んだ。「勇気のしるし」を歌いながら、リズムに合わせてたくさんの版を押した。でき上がると手をたたいて喜んだ。

調理 …サラダ作りでは、レタス係、やきそば作りでは、キャベツ係になり、洗ってちぎる作業を喜んでした。「ビリビリ」「バリバリって」などと言いながらちぎった。「これで、おいしいやきそばを作ろうね。」と言うと、「つくろう、つくろう」と急ぐようにしてちぎった。食べる時、「レタスをちぎったのは、だれでしょう」とか「A子さんのちぎったキャベツおいしいね」とか言ってみんなに知らせた。

トレイ作り …「ンジ」と言いながら、自分のトレイにみかんの絵をかいた。オレンジ色の絵の具をつけてはぬり、つけてはぬり自由にぬった。ぐるぐる筆をまわし楽しそうにいっぱいぬり「できました」と手をたたいて喜んだ。

役立て作り …先生と一緒にきりで竹に穴をあけた。「ゴシゴシ」というかけ声に合わせて手を動かした。釘打ちをする時にも「トントントン」と言ったり、「ひげじいさん」の歌を歌ったり、リズムに合わせてながらした。



(きりを使っているA子)

「野外炊飯」の学習では、火吹き竹、椅子、パラソル、台ふきんなど、まだたくさん作ったが、どの活動にも友達の真似をしたり、好きな遊びの中でA子なりに一生懸命取り組んでいる姿が、昨年と比べてたくさん見られた。

② 「臨海学校」の事例

砂で作ろう …みんなでトンネルや山や池を作った。A子も小さなスコップで砂をすくい「ホイ」と言って砂の山の上に何回も持って行った。先生が、草を取ってきて砂山にさすと、A子も真似をして5、6本さし、「やった」と手をたたいて喜んだ。ドラム缶のトンネルの中をくぐって「パー」と言って出て来たり、砂まみれになって遊んだ。

出し物練習 …3年生の出し物が「一休さん」に決まると、「一休さ〜ん」と喜んでテープをかけては、体をゆすったり、とんだりして踊っていた。テープの大好きなA子は、家に帰っても「一休さん、一休さん」と、デッキにかじりついてた。小坊主のかつらをつくる時、うす糊のついた白い紙をおもしろがってベタベタ何枚もはりつけた。

薪作り …細木を足で踏んで折り、薪を作るようにさせた。はじめは、木をまたいでいてなかなか折れなかったが、足を少し持ち上げると、やり方がわかって「バンバン」と言って折った。次の時には、「足を上げて」と言う、自分で折ろうとした。中学部合同で薪作りをした時には、折る所に、足型()をはりつけて見えやすくしたところ、「ここだ、ここだ」と手でさわって確認しながら「バンバン」と言って折った。1回で折れなかったら何回も踏んで約20分間に7本折った。



(足型の所を踏むA子)

「臨海学校」の学習にも意欲的に取り組んだ。砂場に行って、砂まみれになって、思いっきりからだを動かして遊んだり、「一休さん」を喜んで歌ったり踊ったりした。去年は、先生と一緒にのこで切って薪を作ったが、今年は、足で折る薪作りに挑戦。自分でしようとし、みんなと一緒に頑張った。

③ 「運動会」の事例

きなんせ節 …曲がかかると、すぐうちわをもって踊りだした。廊下を歩きながらも踊っていて熱中していた。みんなと同じ振り付けではなく、自分で自由に手を上げたりとんだりしていたが、いつも楽しそうに踊っていたのでひきもどしたり、強制したりしなかった。家でもずっとテープをかけて踊り、寝ごとにも「きなんせ」と言った。

みんな働き者 …一輪車に薪を2束のせて運んだが、なかなか意欲がわからないので、テープレコーダーで音楽を流しながら走ったところバランスよく早く走れた。運ぶ練習をさせる時、途中でひっくり返してしまった。どうするかと見ていたら、苦勞してやっと自分で起こした。再び押しかけたが進めず、「できない」と言って両手と腹で持ち上げて持って行こうとした。今までは、できないとすぐ放って逃げていたのに、自分で最後までしようとした。

4. 考察と今後の課題

○昨年との比較

単元名	昨年の様子	今年の様子
野外炊飯	<ul style="list-style-type: none"> 途中で「えらい」と言ってすわり込んだり、重い物は運ばなかった。先生に励まされながら2往復した。 	<ul style="list-style-type: none"> 丸太の椅子をしっかりとかかえて最後まで放さずに運んだり、坂道を何回も往復し物を両脇にかかえて運んだ。
臨海学校	<ul style="list-style-type: none"> 砂場に行くと人のするのを見ることが多かった。 先生に手をもってもらって、のこを使って薪を作った。 	<ul style="list-style-type: none"> 砂まみれになってみんなと一緒に遊んだ。 自分の手で、足で、薪を作った。自分でしようとした。
運動会 (みんな働き者)	<ul style="list-style-type: none"> 一輪車が無理だったので小さな荷車で薪を運んだ。できないとすぐ放って逃げた。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな一輪車に薪を2束入れて運んだ。自分で最後までしようとした。



丸太を運ぶA子

すべての活動で昨年より集中、持続が見られた。津守式発達検査やからだの輪郭表には、点数として表れなくても、意欲面、態度面では、びっくりするような場面がいっぱい記録されている。

6月、7月の生活ノートに、「一人で古いジョロをひっぱり出して来て、前庭の木に水やりをしてくれるようになった。学校での学習が生きていてうれしくなった。」とか、「一人でいろいろな空容器を見つけてきて水を入れたり、シャベルで土を掘ってバケツに入れたりして安全に留守番してくれた」とか、「なわをさがして来て、一人で『ポンポン』と言ってなわとびの真似ごとをしたり、今年になって一人遊びが多くなった。」などと母親が書いておられた。学校での学習を思いだし自分で道具をさがしてきて遊ぶというのは、大きな成長である。

学習参観の後で、母親が「中学部では、うちの子のような低い子にも、みんなと同じように活動させてくれるのでうれしい。」と言われた。みんなが同じ目的に向かってそれぞれ一生懸命活動する、みんなと同じようにするということは、親にとっても、子どもにとってもうれしいことである。ペタペタしたり、ベタベタぬったり、ぐちゃぐちゃしたり、人から見ると学習なのか、何をしているのかと思うようなことでも、楽しんで一生懸命しているうちに、その内みんなの役に立っている。そして、「みんなと同じように仕事をしているのだ」「同じようにやったのだ」と認められることは、大きな喜びである。これからも、あせらずに、A子なりにいろいろなことに意欲的に取り組ませ、楽しく活動できるように工夫していこうと考える。